

2022年度 関西大学大学院東アジア文化研究科活動報告

1. 院生合同学術研究大会

院生合同学術研究大会とは、関西大学大学院の院生が各研究科において、研究成果を発表するものである。本東アジア文化研究科では、2022年11月24日（木）に開催し、博士課程前期課程3名、博士課程後期課程2名、計5名が発表した。

また、外部講師による講演も行われ、関西大学名誉教授 陶徳民氏をお招きし、「如何在学术研究中发现问题和解决问题」と題した講演が行われた。

本大会で東アジア文化研究科は、院生による司会制を導入し、院生が主体となる研究発表大会を目指した。その結果、院生同士による活発な意見交換が行われ、各発表者のみならず発表を聞いていた院生も、今後の研究において良い刺激を得ることができた。

これら発表の一部は論文にまとめられ、本書やその他の学術雑誌に掲載されている。

氏名	題目
王 頌 男	東晋門閥士族における家庭教育の背景について
左 晁 露	日中の動物イメージと関連語
胡 日	ハルハ＝モンゴルの判例集『オランハツァルト』について
尹 紫 瑤	皮场王信仰研究
李 晁 哈	周作人早期作品中的“被”字句研究

2. 2022年度 東アジア院生フォーラム

(1) 東亞細亞의 ECO 와 共生

2022年8月17日に「東亞細亞의 ECO 와 共生」が開催され、嶺南大学校東アジア文化学科が中心となり、東アジア文化研究科の院生6名、各自の研究成果の一端を発表した。

氏名	題目
邵 堅	隋唐と高句麗の関係について
陳 路	室町中期の五山叢林における中国史書研究—『史記抄』を中心に
韓 莉	梁漱溟の宗教観について
楊 雪	日本統治時代の台湾における日本語教育—教育現場に注目する
喬 竜 川	荀子「法後王」について再考
劉 明 鎔	王一寧と明末朝鮮乞師考

(2) Eleventh Italian-Japanese-Chinese Researchers Seminar on Language and Cultural Exchanges—Honouring Professor Uchida Keiichi's retirement (第十一届意日中研究生语言文化交流研究论坛暨内田庆市教授退休纪念)

2022年9月22日に「Eleventh Italian-Japanese-Chinese Researchers Seminar on Language and Cultural Exchanges—Honouring Professor Uchida Keiichi's retirement (第十一届意日中研究生语言文化交流研究论坛暨内田庆市教授退休纪念)」が開催され、ローマ大学が中心となり、東アジア文化研究科の院生6名、各自の研究成果の一端を発表した。

氏名	題目
楊 雪	关于日治时期台湾的日语教育考察
东 延 欣	增田涉版《鲁迅传》的中文译本新考—以增田涉手稿为中心
左 晓 露	中日十二生肖之“牛”的形象对比及关联词的感情色彩研究
张 天 皓	从戴遂良《汉语入门 第一卷》看汉语的构词法
邹 王 番	近代來華傳教士之母語漢語教師初探
杨 一 鸣	近代西洋人的汉字知识研究—以卫三畏、翟理斯为例

(3) 東アジア次世代研究者フォーラム

2022年12月16日に「東アジア次世代研究者フォーラム」が開催され、関西大学東アジア文化研究科中心となり、東アジア文化研究科の院生6名、各自の研究成果の一端を発表した。

氏名	題目
鄒 王 番	新教來華傳教士的漢語教師初探—以英文期刊《教務雜誌》為中心
陳 曉 淇	鲁迅《四日》转译底本考
坂 倉 亮	諮議局と清末の国会開設運動
蔡 松 娥	日本語の味覚形容詞「あまい」日—韓、日—中の機械翻訳に関する考察—Google, Papago, Baiduを中心に—
王 怡 静	新井白石の礼学
鄭 天 貽	虎关师炼对黄庭坚的接受
張 米 琪	明治时代展览中的书、画分离对书道振兴的影响—以大槻如电六书会为中心

3. 東アジア文化交渉学会第14回年次大会

東アジア文化交渉学会第14回年次大会は、2022年5月6日～7日に南開大学主催の下開催された。

院生参加者：張天皓、李曉晗、袁帥、喬昭、王婷、屈豎萌、楊一鳴、沈和、陳曉淇、李雲、桑宇、
王超恒

投稿規定

1 適用の範囲

この規程は『文化交渉 東アジア文化研究科院生論集』（以下『院生論集』）への投稿について適用する。

2 掲載の範囲

『院生論集』には、論考、研究ノート、資料紹介、訳注、書評その他の情報を掲載する。

3 原稿の募集について

- (1) 締め切りは7月28日（金）とする。
- (2) 原則として、各号に1論文とする。

4 投稿者の資格

- (1) 東アジア文化研究科もしくは文学研究科文化交渉学専攻の大学院生および修了生であること。
投稿に際して東アジア文化研究科専任教員の同意を必要とする。
- (2) 編集委員会の委嘱を受けたもの。

5 投稿原稿

- (1) これまで他の学術誌に掲載されていないもの、投稿時点で他紙に投稿中でないものに限る。
口頭発表を経たものは、その旨明記する。
- (2) 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わないが、特殊な印刷や翻訳については別途実費負担を求める場合がある。

6 掲載論文について

- (1) 東アジアにおける文化交渉研究に学術的に寄与しうるものとする。
- (2) 掲載原稿は編集委員の審査のうえ、採否を決定する。なお、編集委員は論文等の修正を求められることができる。
- (3) 掲載論文は指導教員による執筆時、及び修正の指導を受けることとする。

7 電子化による公開

『院生論集』に掲載された論文、資料等は、基本的にすべて、国立情報学研究所によって電子化・公開すること、関西大学学術リポジトリに登録することを承諾したものとする。

執筆要領

一、基本情報

(1) 内容

東アジア文化交渉にかかわる論考、研究ノート、資料紹介、訳注、書評その他

(2) 使用言語及び字数

日本語：12,000字程度

中国語：12,000字程度

英語：6,000語程度

その他の言語：事前に連絡すること

資料紹介、訳注、書評等についてはこの限りではない。

図表がある場合もなるべくこの範囲に収める。

(3) 要旨、キーワード、タイトル、氏名

1 英文による要旨を200語程度で書く。

また希望者は論文末に中文あるいはハングルで、要旨を加えることができる。

2 要旨のあとにキーワードを日本語あるいは英語で各4～5語つけ加える。

3 論文タイトル及び執筆者氏名の英語表記を明記する。

4 資料掲載許可等の著作権処理は投稿者が行い、申請するときは、国立情報学術研究所による電子化・公開についての許諾も得ること。

二、原稿の体裁

(1) 原稿は、プリントアウトした原本1部と電子媒体（word、pdf形式）を同時に提出する。

(2) 図表・画像は本文中に組み込まず、別ファイルを作成すること。ただし、打ち出し原稿に割り付け位置、図表・画像のキャプションの指示を行うこと。

三、原稿の書式

(1) 原則として、Word文書で作成すること。

本文のフォントサイズは10.5ポイントとする。

(2) 注は脚注方式を採用。注番号は全角の「1, 2, 3…」の数字を使うこと。

脚注のフォントサイズも本文と同様に10.5ポイントとする。

(3) 文献に関しては参照文献リストをつけず、各論文の脚注のみとする。

(4) 分節化の符号として、章は一、二、三、節は全角1, 2, 3を使用すること。

なお、原則として冒頭は「はじめに」、文末は「おわりに」で統一する。

(5) 年の表記において、和暦と西暦を併記する必要がある場合は、「1911（明治44）年」あるいは「宣統3年（1911）」のようにし、本文中での表記は統一すること。

(6) 本文中の算用数字は半角とする。

(7) 資料の引用は本文に対して二字下げとする。ただし、ファイル上ではスペースを打ち込まず、インデント処理とする。

- (8) 漢字は現代仮名づかいにより、原則として常用漢字の範囲で書く。ただし、旧漢字を使用しなければならない場合はこの限りではない。
外字に関しては、文書ファイルで■（黒い四角）を入力した後、打ち出し原稿に当該文字を朱書すること。
- (9) 欧米人の名前は文中での初出の際、「ウィルソン（Thomas Woodrow Wilson）大統領」のように、丸括弧の中に欧文原名を示す。

四、著作権

- (1) 『院生論集』に掲載された論文等の著作権は、著者及び翻訳者に帰属する。
- (2) 著者及び翻訳者は、院生論集への掲載をもって、関西大学大学院東アジア文化研究科に対して無償で著作物の複製権（著作権法第21条）及び公衆送信権（同法第23条）を許諾し、かつ、拠点が第三者に対してそれらの権利を再許諾することについて同意するものとする。

五、その他

審議を要する事項は、編集委員長が同委員会に諮り定める。

○原稿締め切り

期日までに投稿されなかったものは不可とする。査読を行ったうえで採否を決定します。

また、指定日までに氏名・学籍番号・指導教員・論文題名を下記のメールアドレスに送信し、投稿申請を行ってください。

○提出先

関西大学大学院東アジア文化研究科

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

以文館 4 階 東アジア文化研究科院生研究室 2 『院生論集』編集係

E メール：east.asian.culture2012@gmail.com

○提出方法

原稿の電子データを E メールに添付し、提出してください。

なお、打ち出し原稿をあわせてお届けください（詳細は「二、原稿の体裁」を参照）。

執筆者紹介

(掲載順)

王	書	凝	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
薛	静	雯	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
鎮	守	琳	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
余	仁	偉	(外国語教育研究科	博士課程	後期課程)
樂	曉	涵	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
李	曉	晗	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
王	佳	超	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
黄	佳	欣	(東アジア文化研究科	博士課程	前期課程)
晋		誼	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
西	田	智子	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
王	天	惠	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)
胡		日	(東アジア文化研究科	博士課程	前期課程)
劉	昱	江	(東アジア文化研究科	博士課程	前期課程)
饒	佳	榮	(東アジア文化研究科	博士課程	後期課程)

院生論集編集委員

委員長：陳 曉 淇

委員：王 天 惠・晋 誼

著作権について

- 1) 本書に掲載された論文等の著作権は、著者及び翻訳者に帰属します。
- 2) 著者及び翻訳者は、本書への掲載をもって、関西大学大学院東アジア文化研究科に対して無償で著作物の複製権（著作権法第21条）及び公衆送信権（同法第23条）を許諾し、かつ、拠点が第三者に対してそれらの権利を再許諾することについて同意します。

※本書に掲載された論文等を、著者及び翻訳者の所属機関が、学術データベース等にて電子化・公開を希望される場合は、著者及び翻訳者にその許諾の可否をお伺いください。

文化交渉

東アジア文化研究科院生論集

第13号

発行日 2023年11月30日

編集 関西大学大学院東アジア文化研究科

発行 ©関西大学大学院東アジア文化研究科

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

Eメール jeac@ml.kandai.jp

印刷 株式会社 遊文舎